

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 5月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2275500565
法人名	都メディカル有限会社
事業所名	グループホーム 磯葉の家
所在地 (電話番号)	静岡県御前崎市白羽5522-5 (0548-63-1120)
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 19 人/ 非常勤 5 人/ 常勤換算	16.8人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての1階～3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥36,000	その他の経費(月額)	¥9,000
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,000			

(4) 利用者の概要(平成21年3月10日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	11 名	要介護4	8 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.3 歳	最低 73 歳	最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	座光寺医院、松浦歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設立して6年目を迎えた「磯葉の家」は、家庭的な環境と地域住民との交流を深めた地域密着型サービスはもとより、利用者本人がの自由に過ごせる環境の整備と職員の和によるケアサービスの質の向上が相俟って、グループホームとしての存在感が益々増してきている。利用者それぞれの担当職員を決め、人間関係を密にすることにより更にきめ細かなサービスが可能となっている。利用者個人の尊厳を大切にしながら「おむつをはずしたい。紙パンツを布パンツにしたい。」等の取り組みがされ、ほぼ念願が達成されている。また、外部評価のアンケート調査においても、職員はよく話を聞いてくれ生き生きとして働いているほか、本人及び家族は今のサービスに満足しているとの回答が全員から寄せられ、何の不安もないことが、一連のケアサービスを裏付けている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における要改善項目を真摯に取り組んでおり、ほとんどに改善の跡が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価における要改善項目を真摯に取り組んでおり、ほとんどに改善の跡が見られる。自己評価に当たっては、時間的制約から管理者が職員とのヒアリングを通して全体を取りまとめているが、職員全体での話し合いが行われていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	4ヶ月から2ヶ月に1回開催されるようになり、参加メンバーにも地域住民も加わり、報告・質問・意見・要望等、双方向的な会議となっている。会議で取り上げられた内容は、職員周知もされサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の訪問時、近況報告を話す中で意見・苦情などを聞くようにしている。運営推進会議において家族等から聴取しているが、更に多くの家族等の参加を促していきたいとしている。寄せられた意見・苦情は職員間で話し合いの下に運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との関係は良好で、多くの情報をもらえるようになり、行事やお祭り等には利用者と共に積極的に参加している。また、農作業を通じての地域住民との触れ合いや、中学生の職場体験教育も受け入れるなど地域との結びつきを深める取り組みもされている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を考えた理念「ゆったりと楽しく自由に ありのまま仲間と一緒に 地域の中で暮らす」をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・事務室などに掲げ、また、採用時やユニット会議等でも理念を根底に日々のケアの方向性について意識づけを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係は良好で、多くの情報をもらえるようになり、行事やお祭り等には利用者と共に積極的に参加している。また、農作業を通じての地域住民との触れ合いや、中学生の職場体験教育も受け入れるなど地域との結びつきを深める取り組みもされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価における要改善項目を真摯に取り組んでおり、ほとんどに改善の跡が見られる。自己評価に当たっては、時間的制約から管理者が職員とのヒアリングを通して全体を取りまとめているが、職員全体での話し合いが行われていない。	○	時間的余裕を生み出す工夫を考え、外部評価の結果や自己評価について、職員全員がその課題の認識を持ち、改善にむけての具体案の検討や実践につなげるための取組みが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月から2ヶ月に1回開催されるようになり、参加メンバーにも地域住民も加わり、報告・質問・意見・要望等、双方向的な会議となっている。会議で取り上げられた内容は、職員周知もされサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との関係は、運営推進会議の他に、市主催の会議・研修に参加したり、随時電話連絡や訪問するなどして連携を深めるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等に対して、毎月の利用料の請求時に、担当職員がホームでの暮らしぶりについて一筆箋を添え報告しているほか、訪問時等においても暮らしぶりなどを随時伝えている。健康状態が急変時には即連絡をとるなどの措置をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時、近況報告を話す中で意見・苦情などを聞くようにしている。運営推進会議において家族等から聴取しているが、更に多くの家族等の参加を促していきたいとしている。寄せられた意見・苦情は職員間で話し合いの下に運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを少しでも与えないように必要以上の異動は行わないことにしている。やむを得ず職員が交代する場合は、後任との引継ぎ期間を十分とり(1ヶ月)、周囲の職員がフォローする体制を敷いている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修には積極的に参加できるよう支援している。特に、社内研修にあっては、採用時から段階的な研修(A研修・B研修・AA研修等)が組まれており、職員の育成には力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとは常時交流を深めており、また、近隣の事業者に対しても包括支援センター主催の会議あるいは個別な交流も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し入居(日帰り・宿泊)のサービスを視野にいれているが、未だ機が熟していない。本人及び家族等にホームの見学を呼びかけ、また、自宅を訪問する中で話し合いを行なって入居を決定している。入居後は、声掛けするなどして、その場の雰囲気やサービスを体験する中から、徐々に馴染まれるような工夫をした支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の作法から料理の仕方まで幅広く教えられ、また、新しい知識を伝えたりする中で、お互いに距離感をなくし、頼れる・頼られるの相関関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の様々な場面を通してその人の思いや好みを、会話・表情から汲み取り把握するように努めている。把握した内容や職員同志の気づきを「申し送りノート」に残し共有している。個々の気持ちを大切に利用者本位の生活が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのアセスメントや暮らしの状態を基に担当職員が作成し、日々の気づきや問題点を全職員で話し合い、利用者の特徴を踏まえた介護計画を、家族に説明し同意を得て作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行なっている。介護計画が現状に合っているかどうかを毎月のモニタリングで評価している。利用者の状態に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎や、要望に応じ外出介助・同行支援など柔軟に対応している。ドライブで花見に行ったり、外食などにも出掛けている。入院時は早期退院に向けた取り組みを行ない、個々のニーズに応じて対応している。系列のグループホームとの交流もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続やホーム協力医療機関への移行など、適切な医療が受けられるように支援している。家族とも連携して情報交換を行なっている。協力医は定期的な受診のほか緊急時には往診にも対応してくれる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した対応については、必要になった時に家族に希望を聞き、家族・医師・職員と話し合い今後の対応を明確にしている。協力医療機関の医師の協力を得て看取りを行なった実績がある。	○	ホーム又は法人としてその指針を定め職員が共有しておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の今までの暮らし方や生き方を尊重しながら、個々に合わせた言葉掛けや、対応をしている。居室に入る時は声をかけ了解を得てから入ることや、排泄の誘導等プライバシーに配慮している。記録等の個人情報は事務室にて適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や思いを大切に、できるだけ利用者の希望に沿えるように配慮している。散歩や調理・洗濯物たたみ・歌を歌い談笑を楽しみ、ゆったりと自由にその人らしく過ごしている。また、行きつけの店に行くなど個別の外出支援も行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ウィークデ이의朝食以外の食事は、近くの食堂からの取り寄せているが、週1回日曜日の食事作りは利用者の希望を参考に献立を決めている。炊で育てた野菜を使って調理や配膳・下膳・食器の洗いなど、利用者のできることをそれぞれの力に応じて一緒に行なっているが、職員は持参したそれぞれの弁当などを食していた。	○	ホーム内で利用者の力を活かしながら食事を作る回数を増やす取り組みや、職員と利用者が一緒に食卓を囲み食事を楽しめる環境作りが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日・時間帯は決められているが、利用者の生活習慣や好みの湯温を把握し、体調・状態それぞれに合わせた対応をしている。手ぬぐいで作った米ぬかを入れた袋を使用して、かゆみがなくなると利用者に喜ばれている。時にはお茶風呂やゆずの香りも楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中から希望に応じた仕事や役割を見出し、畑仕事・布団干し・米とぎ・味噌汁・新聞紙を折って作るゴミ入れ・縫い物等それぞれの役目として行っている。歌集を作って皆で歌ったり、役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じ戸外で気持ちよく過ごせるように外出の機会を多く設けている。日常的に散歩に出掛け、花の水やり・スーパーへの買い物・夏祭り・季節の花見・市外にも外出に行っている。毎月1回墓参りする利用者や喫茶店にコーヒーを飲みに行く利用者等、利用者の個々の要望に応じて外出支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関からそのまま通りに出られるが、鍵をかけないケアを実践している。利用者は自由に外に出られ、エレベーターや階段で行き来ができる。職員は何度も外に出掛ける利用者につき合っている。利用者の動向を把握してその人に合わせた対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。その内の1回は消防署の協力で行なわれている。防災対策マニュアルが作成されており、職員はAEDの講習も受けて緊急時に対応できるよう取り組んでいる。地域企業の「支援ネットワーク」に所属し、ボランティアとの協力体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎朝食・日曜日はホームでの調理、ウイークデイの昼食・夕食は給食を利用している。栄養バランスもよくカロリーや量を考慮して高齢者に適した食事を提供している。水分摂取量が少ない場合は食事の際に補い、必要な量に留意しているが記録が見られなかった。食事摂取量の記録はある。</p>	○	<p>水分確認は体力低下時の個別支援の基礎となるので記録も残すことが望まれる。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂のオープンキッチンには職員が利用者を見渡せるようになっている。居間のテレビの前にはソファが設置されており、利用者がゆったりと寛げる空間となっている。季節に合った飾りや花が置かれている。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の日当たりのよい明るい居室は使い慣れた物の中で落ち着いて過ごせる雰囲気となっている。洗面台が配備され、仏壇や冷蔵庫など希望のものを持ち込むことができる。各居室の入り口には、職員が作った利用者の写真入りのきり絵が表札になっている。</p>		